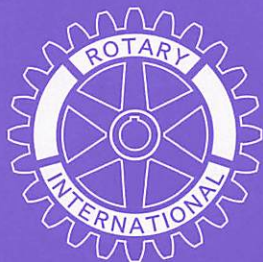


THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY 名古屋 ちくさ

題字 伊藤昌石

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 名古屋東急ホテル
事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
会長 伊藤 健文
幹事 長谷川 亨
公営メーソ上委員会 福井 浩道

No. 30

ロータリーは世界をつなぐ
ROTARY CONNECTS THE WORLD

2019～2020年度

RI会長
マーク・ダニエル・マローニー

今日の例会

第1774回 2020年(令和2年)6月9日(火)
卓話:「食品ロスとセカンドハーベストの活動」
セカンドハーベスト名古屋 理事長 山内 大輔 様

先回の例会

第1773回 2020年(令和2年)6月2日(火)晴
卓話:「言語は進化するのか」
名古屋大学大学院 教授 玉岡 賀津雄 様

◆君が代

◆我らの生業

◆ゲスト紹介

名古屋大学大学院人文学研究科 教授 玉岡賀津雄 様

◆出席報告

正会員 35(31)名 出席 24名
出席率 77.42%

長谷川幹事報告

- 1) 5月の理事役員会承認報告
- 2) 6月のメイクアップについて: 他クラブもまだ休会のクラブが多々ございます。ビジターも受付およびサイン受付設置も取り止めております。例会欠席分の補填はEクラブ例会にてお願いいたします。
- 3) 6月のロータリーレート1ドル=108 円
- 4) 第2760地区10年史が発刊されました。10年史副委員長池森君より25冊ご寄付頂きました。10冊はクラブから購入しておりますので会員1冊ずつお帰りにお持ちください。
- 5) ロータリーフェイスシールド寄贈事業について

*今月の当クラブ例会は、ビジターおよびゲストの出席をご遠慮いただいております。よろしく願いたします。

伊藤会長挨拶



やっと例会が再開できました。3ヶ月の休会はとて長く、会長として苦慮の日々でした。今日、皆さんの元気な姿を拝見して内心ほっとしています。休会期間中は各事業の中止や延期が

多く、会の運営に支障をきたしていましたので、先週の火曜日に理事会を開き

- 6月からは新型コロナ感染に注意しながら、マスク、消毒、ソーシャルディスタンス等を実施しながら運営して参ります。
- 春季家族会は延期となっていました。コロナの第2波を考慮し、中止する事といたします。
- 6月23日(火)の最終例会は、通常通りの開催として、ご夫人へも例年通り案内を郵送予定です。
- 休会中の例会食事費の件につきましては、会員の皆様の替同をいただかなければなりません。休会期間の3月3日～5月26日の10回で一人42,000円ですが、定款により会員への返金は無しとして、最終例会の会員の会費に充当。又、地区代表者のみ参加で6月に開催の地区研修協議会の登録費へ、例会費を充当する予定です。この例会食事費の使い方は、理事会では承認いただいておりますが、会員の皆さんの同意が必要となります。もし反対の意見があれば、ご発言頂きたいと思っております。
- 理事会で次年度予算は承認されました。ニコボックス、結婚記念日お祝いは今期5,000円でしたが、次年度はお一人10,000円に変更して、友愛の日にお祝いしたいという事に決まりました。

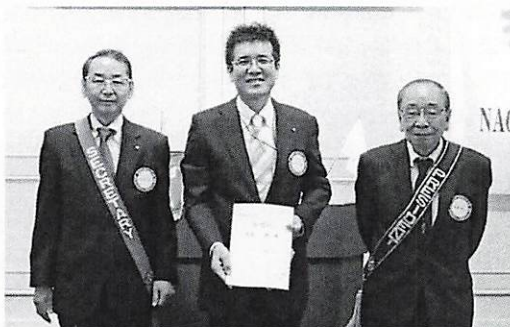
以上、今月の予定と報告とさせていただきます。

「3密」に注意しながら、頑張りましょう。



◆2020—21年度地区委員委嘱状伝達式

足立 一郎 君 インターアクト委員会 委員
太田 和孝 君 学友委員会 委員



〈太田君本日ご欠席〉

◆2020学年度米山奨学生世話クラブおよび
 カウンセラー委嘱状伝達式
 カウンセラー 宮尾 紘司 君



今月の例会から米山奨学生 邱紫雁さん出席されます

卓 話: 「言語は進化するのか」



名古屋大学大学院・人文学研究科
 教授 玉岡 賀津雄 様

言語には特有の基本語順があります。私達は、英語、フランス語、スウェーデン語、イタリア語などヨーロッパ言語の語順から、世界の多くの言語が、主語・動詞・目的語の語順だと思っていないでしょうか。ところが、世界の言語でもっとも多いのは、日本語、朝鮮語、アイヌ語、アルタイ諸語、ウラル諸語などの主語・目的語・動詞の語順で、3,000語中で1,231言語(48.5%)を占めています。一方、主語・動詞・目的語はヨーロッパ諸言語に多く、981言語(38.7%)になります(語順の情報は、山本秀樹、2003『世界諸言語の地理的・系統的語順分布とその変遷』より)。このように、世界では、日本語のような語順の言語のほうが多いです。

主語の後に動詞がくる語順が、最も進化した言語のかたちだと思込んでいないでしょうか。文の理解という点からみると、動詞は文の初めにくるほうが理解し易そうです。たとえば、後で食べようと思ってケーキを冷蔵庫に入れておいたとします。ところが「姉が私のケーキを食べた。」とします。英語であれば“My (elder) sister ate my cake.”と言うでしょう。その際、主語が初めに来て、動詞 eat(食べる)の過去形の ate が続きます。これは他動詞なので、次に食べる対象がくるのが容易に予想できます。ヨーロッパ言語はほぼこの形式で、動作の主体である主語がきて、次に動詞がきます。動詞は、文がどういう主語や目的語を取るかという豊富な情報も持っています。そのため、次に何が続くかが分かります。この種の言語は、動詞の情報を活用して文が理解できるので、「動詞駆動型処理」の言語と考えられています。

日本語では、主語と目的語がきてから、最後に動詞がきます。そのため、「姉がケーキを」まで聞いたのでは、主語と目的語の関係が分からないのです。ヨーロッパ言語のように、動詞の情報を活用して文を理解することができないのです。

もちろん、主語の「姉が」と目的語の「ケーキを」から動詞を予想することもある程度はできます。しかし、「作った」「買った」「切った」などいろいろな可能性があり、あまり効率的ではありません。1859年にダーウィンの『種の起源』が出版されました。そして、進化論を言語に適用して、ヨーロッパ言語のような主語の後に動詞がくる語順がより進化したかたちだと考えられたようです。

面白いことに、中央アメリカから南アメリカに広がるインカ語族やトンガ語などの南太平洋の言語の多くは、動詞が文の初めにきます。文の初めに動詞がくるので、主語や目的語の特性ばかりか時制の情報まで文頭で示されるのです。たとえば、「女性が魚を食べた。」という文であれば、トンガ語では Na'e kai 'e he fefine 'a e ika. と言います。初めの Na'e kai が「食べた」、'e he fefine が「女性が」、'a e ika が「魚を」です。初めの「食べる」の過去形を見ただけ(あるいは聞いただけで)後に食べる人と食べられる対象が続き、その行為が終了していることも分かります。そうすると、トンガ語はヨーロッパ言語よりもさらに「動詞駆動型処理」が効率的に機能する言語であり究極の進化を遂げた言語となるのです。しかし、ほんとうにそうなのでしょうか。

文を理解するまでの時間を比較してみましょう。日本語の主語・目的語・動詞の文の処理時間(文が視覚提示されてから正しいかどうかを判断するまでの時間)は平均 1,209 ミリ秒(Tamaoka et al. 2005; 1秒=1,000 ミリ秒)です。一方、トンガ語の動詞・主語・目的語の文の処理時間は平均 2,097 ミリ秒(準備中、玉岡の実験より)で、日本語のほうがトンガ語より 888 ミリ秒も処理時間が短いのです。もちろん、トンガ人よりも日本人のほうがコンピュータを使うことに慣れているとすれば、この種の実験がより迅速に行えると思われれます。しかし、それにしても差が大きいですね。少なくとも、動詞が文の初めにくることによる「動詞駆動型処理」が効率的な文理解を促進するという事はなさそうです。しがたって、主語・動詞・目的語へと進化するというアイデアは正しくなさそうです。むしろ、人間は、言語を獲得する先天的な能力を有しており、その際、多様な語順に適應できるような脳の機能が準備されていると考えるのが適切でしょう。

(HP: tamaoka.org)

RI 理事会報告 (4 月RI理事会決定事項)

【一般原則】

- ・ロータリーのプログラム、会合、行事の全参加者の健康と安全が何よりも重要である。
- ・ウイルス流行のため出席したくないと感じるいかなるロータリー参加者に対しても、直接顔を合わせる会合や行事への出席が義務づけられないものとする。
- ・ロータリーの会合のすべての招集者と運営者は直接顔を合わせる会合を実施するか否かを決定する際、あらゆる健康上の懸念を考慮することが強く推奨される。
- ・ロータリーの会合のすべての招集者と運営者は、当該地域で有効となっているすべての健康と安全上の規則に完全に従うものとする。

*ニコボックスは次回掲載させていただきます

次回例会： 2020年(令和2年) 6月16日(火) 12:30 名古屋東急ホテル3F「錦の間」
 友愛の日